ぼいす

北区飛鳥山博物館だより
2021.3.20
46

東京名所
王子飛鳥山ヨリ
製紙会社ノ真景

飛鳥山公園写真

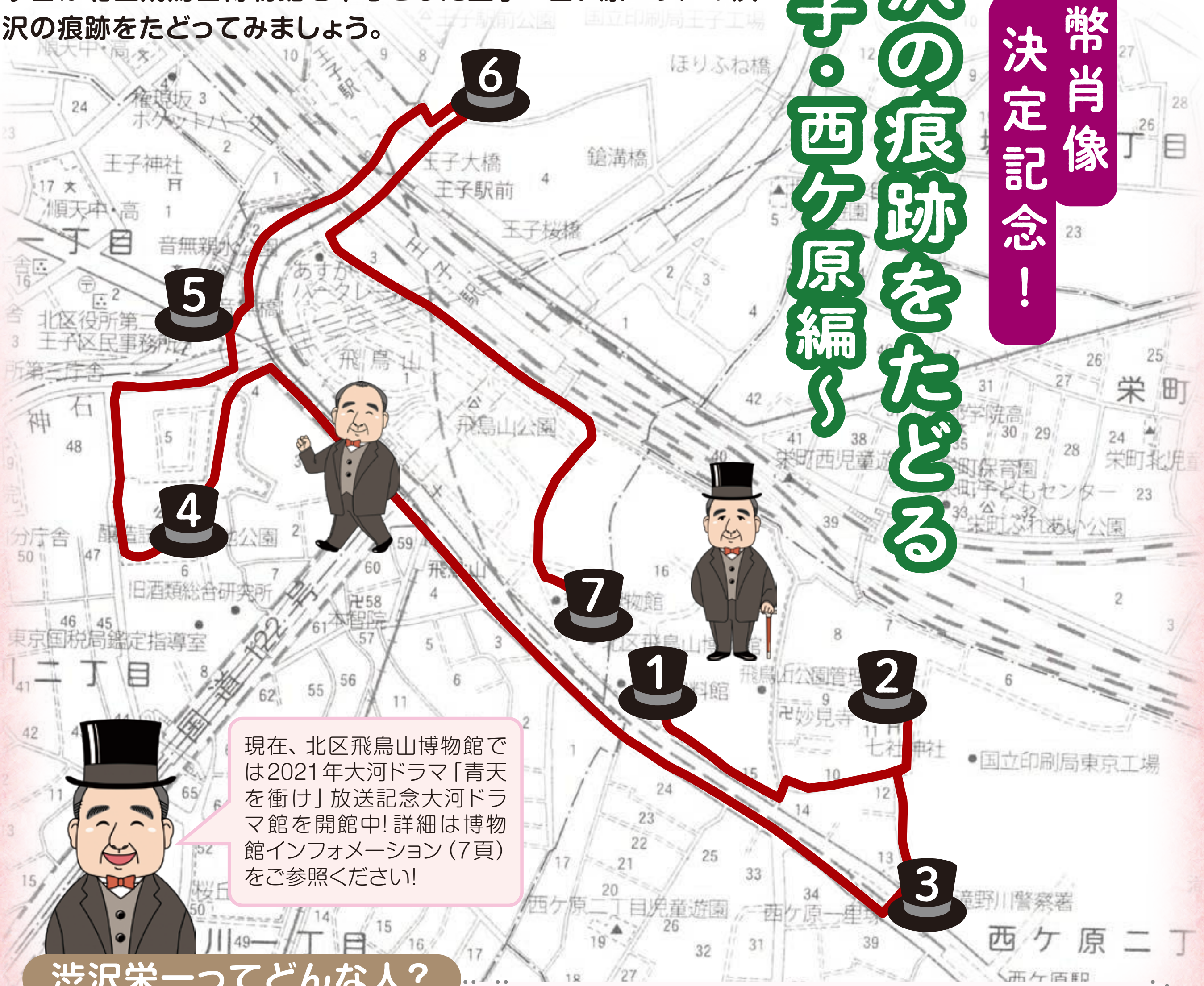
景色変われど
今も変わらぬ心、
ここにあり—

あるく・みる・きく Special!

北区、渋沢の痕跡をたどる ～王子・西ケ原編～

新紙幣肖像決定記念！

昨年の2020年、新1万円札の顔として決定、そして2月14日から始まった大河ドラマ「青天を衝け」の主人公である渋沢栄一。彼は飛鳥山に自身の邸宅を構えたことに始まり、北区とはゆかりが深い人物です。今回はそんな渋沢栄一にゆかりある北区の場所をご紹介します！普段よく知るあんな場所やこんな場所も、実は渋沢ゆかりの場所!? かもしれません。ぜひこの「ぼいす」を片手に今年は北区渋沢探訪はいかがでしょうか？今回は北区飛鳥山博物館を中心とした王子・西ヶ原エリアの渋沢の痕跡をたどってみましょう。



現在、北区飛鳥山博物館では2021年大河ドラマ「青天を衝け」放送記念大河ドラマ館を開館中！詳細は博物館インフォメーション（7頁）をご参照ください！

渋沢栄一ってどんな人？

渋沢栄一は天保11年（1840）に武蔵国榛沢郡血洗島村（現埼玉県深谷市血洗島）の渋沢家の長男として生まれました。渋沢家の家業である藍玉の生産販売を通し、その商業の才をめきめきと伸ばす一方で、従兄の尾高惇忠（惇忠の妹、千代と後に結婚）の許に通い、論語などの学問も身に着けました。

青年期には尊攘派志士として活動するようになりますが、かねてより交流があった一橋家家臣平岡円四郎の推挙によって、一橋慶喜に仕え慶喜が将軍となったことで栄一は幕臣となりました。その後、慶喜の弟、昭武の随行としてパリの万国博覧会に赴き、フランス留学を経て、大政奉還を受けて帰国しました。

帰国後当初は慶喜に仕えますが、その後新政府に出仕、政府退官後は実業家として明治期の日本経済や産業に大きな影響を与えました。明治10年（1877）以降、飛鳥山に居を構え、現在も栄一の書庫、そして接客の場としても使用された青淵（なお、青淵とは渋沢の雅号）文庫と国内外の来賓を迎えた晩香盧（ばんこうろ）は、国の重要文化財として飛鳥山公園に残っています。

1 飛鳥山邸

渋沢栄一は明治10年（1877）、飛鳥山の土地・約4,000坪を購入し別邸・曖依村荘をいとなみました。（のちに本邸）栄一は実業界の代表として国内外から賓客を迎えることが増え、花見の名所であった飛鳥山を接客・接待の場に選んだのでした。飛鳥山は栄一が設立に深く関わった抄紙（しょうし）会社（のちに王子製紙）に近く、工場の操業後も長く近くで見守り続けたいという思いを持っていたことも、ここに邸宅を建てた理由と思われます。また飛鳥山邸は、地域の人びととの交流の場ともなりました。（石倉）

本図は、春の飛鳥山に集う花見客と飛鳥山の眼下に広がる製紙会社を描いた石版画です。現在は景色も様変わりしましたが、飛鳥山からは王子の街を見降ろすことができます。

東京名所　王子飛鳥山ヨリ製紙会社ノ真景
（明治26年 有山定次郎）

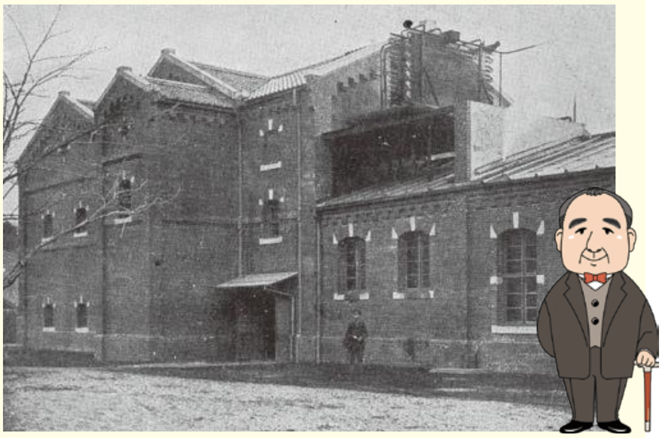
2 七社神社

かつて西ヶ原2丁目には江戸時代、将軍家の鷹狩に際して上様が立つ場所「御立場」があり、そこには「御成の松」が立っていました。明治時代後期、渋沢邸を訪れた徳川慶喜は、ここに立ち寄っては茶を喫したといわれています。おしくも明治44年（1911）、松は枯れましたが、これを惜しんだ栄一は「御立場」の由緒を石碑に記し長く記念としました。現在は場所を七社神社境内に移しています。（石倉）

祭枯松文拓本（当館所蔵）

3 西ヶ原一里塚

西ヶ原一里塚は、当時のままの位置に現存する都内唯一の一里塚で、大正11年（1922）に国指定史跡に指定されました。しかし一里塚は、大正5年（1916）東京市が電車軌道の敷設により存続の危機に直面しました。一里塚の廃滅が計画されることを知った栄一は、滝野川町民とともにその保存を推進しました。（石倉）



竣工当時の醸造試験場　外観　『醸造試験所報告』第1号より

4 醸造試験場跡地公園

醸造試験場跡地公園の名ともなっている醸造試験場とは旧醸造第一試験工場（国指定重要文化財）のことで、明治37年（1904）に創設された大蔵省醸造試験所の清酒醸造工場として設立されました。醸造試験場の大きな特徴の一つとしてその外観の煉瓦（れんが）造りがあげられ、通称赤煉瓦酒造工場とも呼ばれています。この使用された煉瓦を製造したのが栄一らが明治21年（1888）に設立させた日本煉瓦製造株式会社（埼玉県深谷市）でした。今もなお現存する醸造試験場の風格ある赤煉瓦はまさに北区が誇る栄一が残した明治の産業遺産の象徴ともいえるのではないでしょうか。（谷口）

5 音無橋

音無橋は、都市計画事業の一環として石神井川の王子神社付近に渡した、アーチ形鉄筋コンクリート橋です。昭和4年（1929）12月に起工し、同6年1月に竣工しました。この橋は、石神井川の渓谷によって隔てられていた王子町と滝野川町をつなぐことを目的に架けられ、交通の便が図られました。栄一は資金面のほか開通式協賛会へも多くの支援を行いました。（石倉）

6 洋紙発祥の地碑（王子製紙）

栄一が飛鳥山に邸宅を構える理由ともなった王子製紙。当時洋紙は基本的に輸入に頼っており、実業家となった栄一は北区王子に抄紙会社を明治6年（1873）に設立させ、そして明治8年（1875）に工場を設立しました。創業当初は政府からの依頼による地券発行を中心としていましたが、その後は新聞発行なども手掛けその普及につとめました。1876年に製紙会社へと名を改め、製紙産業をけん引する存在として大きく発展を遂げました。（谷口）

7 北区飛鳥山博物館

現在、北区飛鳥山博物館1階常設展示室内で常設展示ミニ展示「渋沢栄一と北区」を開催中です！（～12月26日まで、別途常設展観覧料が必要となります。）今回ご紹介していないトピックも含め、北区の地域発展に大きく貢献した渋沢栄一の功績をご紹介しております。ぜひ探訪のラストには当館にお立ち寄りいただけましたら幸いです。（谷口）

みみより情報

観覧無料

絶賛開催中！

ASUKAYAMA セレクション5★2021★

3/20(土)〜5/9(日)

今年の北区飛鳥山博物館では3階のアートギャラリー第1室を中心として様々な展示を開催予定です。その第一弾として3月20日より当館恒例の収蔵展示、スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5★2021★」を開催いたします。

本展示は普段常設展示では目にすることができない、当館の収蔵庫でひっそりと眠っている資料を数名の学芸員によって5点選出し、その見どころを含めてたっぷりとご紹介するものです。

今回のテーマは「願い」。考古資料から現代の資料まで様々なジャンルの資料から当館学芸員厳選の願いにまつわる資料が今、3階のアートギャラリー第1室に舞い降ります！彼らにはどんな願いがこめられたのか？またはどんな願いのために使われたのか？彼らが紡ぐ願いの音をぜひご堪能いただけましたら幸いです。本展はゴールデンウィーク明けの5月9日まで開催しております。皆様のご来場、心よりお待ちしております。（谷口）

絵馬（当館所蔵）

開催期間	2021年3月20日（土）〜5月9日（日）
会期中の休館日	毎週月曜日（祝日を除く）、5月6日（木）
開館時間	①3月20日〜3月31日…午前9時45分〜午後6時 ②4月 1 日〜5月 9 日…午前9時〜午後6時
会場	アートギャラリー第1室（当館3階）

VOICE YouTubeと博物館

博物館の最大の強み、これは実物資料があることです。この強みをこんなにも活かせない1年がやってくるとは夢にも思いませんでした。実物を見ていただくためには、博物館に集まっていただくしかありませんが、当館名物・夏休み中毎日やっていた体験講座も、毎週のように開催していた講座もいまだ再開できずにいます。

しかし、いつまでも手をこまねいている北区飛鳥山博物館ではありません！皆さまを集められないならば、こちらからインターネットの海にくり出すまで！ということで、当館では、昨年、各種SNSのアカウントとともに、YouTubeチャンネルを開設しました。これまで、夏休みに親子で工作をするための動画や、旧松澤家住宅の差し茅工事の動画をアップしてきました。今後も、区内の文化財を紹介する動画や、渋沢栄一と北区についての動画などを配信予定です。

展示や講座に関しては、他館の事例で学芸員が展示室を案内したり、講座をYouTubeライブで配信したり、YouTubeというツールを使った様々な工夫が見られます。他館での挑戦を見習いつつ、当館らしい動画の作成を企画中です。

しかし、あくまでも博物館が博物館たる所以は「実物資料があること」です。YouTubeなどで北区の資料や文化財の魅力を発信しつつ、本物を観に行きたくなるような動画づくりを心がけていきます。（工藤）

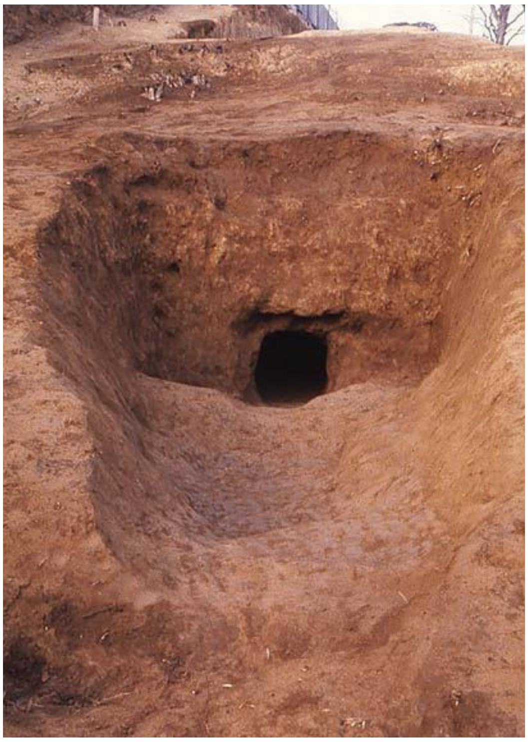
大地・水・人

大地を穿つ古代人の墓

鈴木 直人（当館学芸員）

北区は遺跡が多い地域である。台地の縁辺や低地の河川の周囲などに遺跡は存在する。その内容は集落や貝塚、古墳など多岐にわたる。これらの遺跡は平坦面に広がりをみせるのが普通だが、じつは崖地に存在する遺跡がある。これが横穴墓である。横穴墓は崖地に穴を穿って墓室を造る、古墳時代から奈良時代にかけてみられる墓の形態で、九州から東北に至る各地に分布している。北区でも数カ所でその存在が知られているが発掘調査でその内容が確認された例は赤羽台横穴墓だけである。

赤羽台横穴墓群はJR京浜東北線赤羽駅の北北西750m、東京都北区赤羽台4丁目の八幡神社敷地内および星美学園敷地内で、1982年から1984年にかけて行われた東北新幹線の敷設工事に伴う発掘調査で発見された。横穴墓群は武蔵野台地を刻む小支谷の南東側斜面に立地している。



斜面に穿たれた横穴墓（赤羽台13号横穴墓）

横穴墓は標高20mほどの台地の12～18mの高さにほぼ直線的に19基確認された。19基は90mの範囲にほぼ等間隔に配置されていた。横穴墓の構造は基本的には長方形のやや長い前庭部をもち、短い羨道を通じて玄室に至るもので、玄室の平面系は正方形や長方形が多く、徳利形のものが1例だけある。天井の形態はいずれもやや扁平なアーチ形をしている。大きさでは玄室長が95cmしかない小型のものもある。遺物はほとんどなく、赤羽台横穴墓群がいつごろどのような順序で構築されたかは不明な点が多い。

しかし、横穴墓の形態的特徴や他地域との関連からおおむね7世紀後半から8世紀にかけて造営されたことが予測されている。

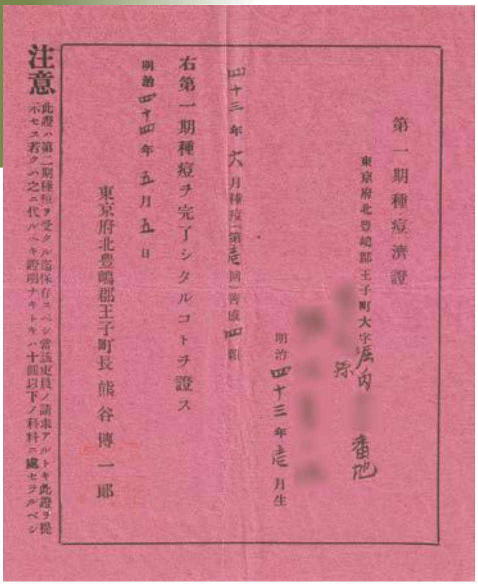
遺物の少なさとは裏腹に人骨の依存状態は良く、多くの横穴墓からさまざまな状態で出土した。解剖学的配置を保ったままのものは仰臥伸展葬で、他には追葬のために脇に寄せられた集骨があり、さらには骨の一部しか存在しないものもあった。先に挙げた小型の横穴墓はその大きさから小児用かと思いきや、中から大人の四肢骨が縦に並べられていた。これは、別のところに一度葬って、後で掘り出し骨を選んで埋葬し直したものである。これを改葬という。これら埋葬方法の差異は年代差なのか、それとも他に要因があるのかは不明である。

玄室内に並べられた四肢骨（赤羽台8号横穴墓）

最後にこの赤羽台横穴墓群の造墓集団とはいったいどんな人たちだったのだろうか。そこで注目されるのは、玄室床面に貝が敷き詰められているものがあるということ。いわゆる「貝床」であるが、これをもつ横穴墓は房総半島の富津周辺と海をはさんだ西側の三浦半島に多く見られる。こうした地域が赤羽台横穴墓群に葬られた人たちのふるさとなのであろうか。また、先に挙げた赤羽台横穴墓の構造的特徴は、実は茨城県北部のものとよく似ていることが指摘されている。中には多摩川下流域の特徴（平面形徳利形）を持つものもあるのが、それ以外は常陸北部の特徴である。その特徴が近距離のものよりも遠距離のものの方が多くを占めるということは、偶然ではなく強い関わり合いがあったものと思われる。造墓職人を呼んだのであろうか。でもそれはなぜなのか。崖に穿たれた古代の墓にはまだまだ解決できていない謎が多い。

モノの記憶

－種痘(しゅとう)証明書－



第一期種痘濟證

東京府北豊島郡王子町大字辰内　番地

孫

明治四十三年壱月生

四十三年六月種痘（第壱回）善感四顆

右第一期種痘ヲ完了シタルコトヲ證ス

明治四十四年五月五日

東京府北豊島郡王子町長　熊谷傳一郎

注意　此證ハ第二期種痘ヲ受クル迄保存スヘシ當該吏員ノ請求アルトキ此證ヲ提示セス若クハ之ニ代ルヘキ證明ナキトキハ十圓以下ノ科料ニ處セラルヘシ

当館の収蔵資料のなかには種痘証明書が数多く残されている。現在では耳慣れない言葉だが「種痘」とは天然痘のワクチン接種であり、日本では昭和51年（1976）まで実施されていた。

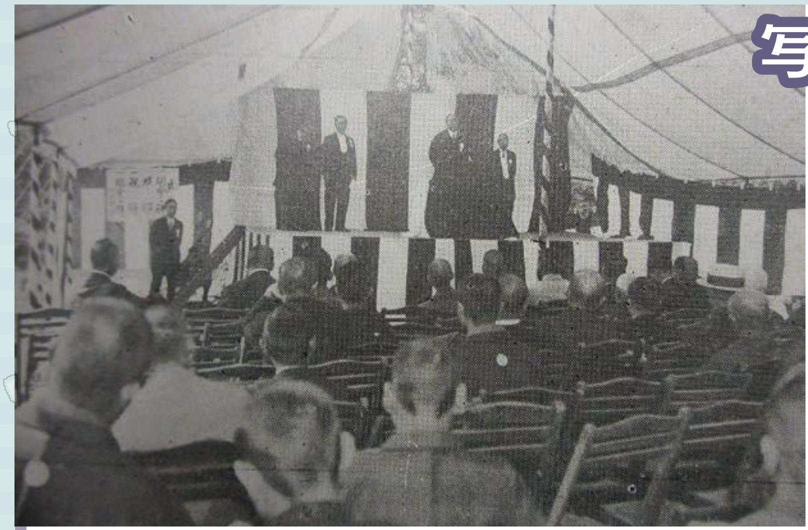
天然痘は痘瘡(とうそう)・豌豆瘡(わんずがさ)・裳瘡(もがさ)などと呼ばれ、日本では少なくとも奈良時代から頻繁に流行を繰り返してきた。その致死率は高く、江戸時代には乳幼児の死亡率を押し上げる一大要因であった。長い間この病から逃れるには神仏に頼るほかなかったが、1796年にイギリスのジェンナーが牛痘種痘法を発明。日本への導入はだいぶ遅れて嘉永2年（1849）となったが、その後は全国各地の蘭方医の情熱と尽力により一気に種痘が広がっていった。

明治維新後も天然痘は何万もの命を奪っていたが、国も種痘を推進し、明治42年（1909）には未成年者への種痘を保護者と市町村に義務づける種痘法が公布された。同法施行前の証明書は医師名で発行されていたが、同44年（1911）の証明書（写真）には王子町長の名が記されている。なお、『王子町誌』（昭和3年）によれば、同町では大正13年（1924）・昭和3年（1928）に各2名が天然痘に罹患しているものの、いずれも治癒に至っている。

WHOが天然痘の根絶を宣言したのは1980年。感染症との戦いは長期にわたるが、現在直面している新型コロナウイルスに対しても人間の知力と科学の力を信じたい。（久保埜）

写真に見る　あの日あの時

渋沢庭園での大東京併合祝賀会



（写真『瀧野川町誌』瀧野川町誌刊行会　昭和8年より）

昭和7年（1932）10月1日　東京市と隣接する荏原・豊多摩・北豊島・南足立・南葛飾の5つの郡が併合されました。従来の東京市15区に王子区・滝野川区を含む新たな20区を加えて35区の大東京市となったのです。写真は、この日に渋沢庭園内で行われた併合祝賀式典を写したものです。庭園に設置されたテント内の演壇上では祝辞の演説が行われています。

渋沢庭園は、西ヶ原に居住していた渋沢栄一の自邸内の庭園です。地域の公共事業や福祉・青少年育成にも尽力した栄一ですが、親睦の目的で地域の人々を度々自邸内に招いて園遊会を開いています。

渋沢栄一は、この祝賀会が行われる一年前の昭和6年（1931）11月11日に91歳で生涯を閉じましたが、渋沢家の好意により庭園が祝賀会場として提供されました。庭園内には、ビール、燗酒、おでん、すし、だんご、天ぷらの模擬店も準備されたようで、祝賀式典の後、そちらに移動して多くの区民が祝賀会を満喫しました。『瀧野川町誌』には、「彼処にも此処にも慶祝の爆笑、祝杯の交換、秋の飛鳥山をゆるがさんばかりの賑やかさで、けふから大東京市民となつた誇りは園遊会場に充ちみちて居た」と、その様子が記されています。町誌にはまた、「この日、老子爵の温容、童顔に接することも出来ず、世辞たっぷりの祝辞を聴くすべもなかったのは物足らぬ心地がした」と渋沢翁に対する追慕の思いもつづられています。（山口）

学芸員の本棚

佐野眞一『渋沢家三代』

文藝春秋(文春新書)、1998年

渋沢栄一が2021年の大河ドラマ主人公になると知って最初に読み返したのが、この本です。書名にある「三代」とは、渋沢栄一、その息子篤二、さらにその息子(栄一にとっては孫)の敬三。

全7章からなる本書は、栄一の生まれた血洗島の風土から始まり、倒幕の血気に燃えていた青年栄一が、一ツ橋家に仕官し、明治新政府では大蔵省で働き……と栄一のめまぐるしく変わる境遇と人間関係を辿っていきますが、ドキドキわくわくしながら栄一の人生を追っかけて読了できる本ではありません。中盤の第4章から、篤二と敬三の、それぞれ陰影に富む人生が並行して描かれます。また、妻や娘である渋沢家の女性たちの人生も。渋沢家に生まれたが故に篤二と敬三が受けた重圧と孤独感には、読んでいて息苦しさを覚えるほど。ただ筆者の筆は、彼らを悲劇の人物としては描きません。廃嫡された篤二も、民俗学に専念できなかった敬三も、それぞれの境遇下で成し遂げたものがあり、とても魅力的です。

筆者は、三代それぞれの人生を、さまざまな資料や関係者の証言から掘り下げていきます。本書には多数の人物が登場しますが、どの人物も生々しく、読んでいて「まるでドラマの一場面みたい」と思う描写もちらほら。おかげで人物や出来事が印象的で、栄一をめぐる人間関係なども自然と頭に入ってきます。大河ドラマの予習本として、またドラマの栄一像との比較を楽しむのもアリ。栄一が身近なこの機会に、一読してはいかがでしょう。(田中)

博物館インフォメーション

大河ドラマ館が飛鳥山博物館にやってきた!

2021年2月14日より放送開始の大河ドラマ「青天を衝け」の放送を記念した大河ドラマ館が2月20日に開館しました。チケットなどについては以下の通りです。詳しくは公式HP(https://taiga-shibusawa.tokyo/)か東京北区大河ドラマ「青天を衝け」活用推進協議会(Tel:03-3908-1364/北区役所シティプロモーション推進担当課)までお問い合わせください。

ドラマ館詳細	
開催期間	令和3年2月20日(土)～12月26日(日)
開催時間	通常期 9時～17時(最終入館は16時30分) 混雑期 9時～18時(最終入館は17時30分) ※混雑期:3月19日(金)～ 5月9日(日)、 7月 2日(金)～10月3日(日)
休　館　日	毎週月曜日(国民の祝日・休日の場合は開館し、直後の平日が振替休館となります)
場　　所	北区飛鳥山博物館2F(東京都北区王子1-1-3)

★新型コロナウイルスの感染予防・拡散防止のため事前予約制(日時指定券)を導入します。ご来館前に「日時指定券」をご予約ください。
★ドラマ館チケットをお持ちのお客様には1枚につき1回限り、飛鳥山博物館常設展示が無料でご観覧いただけます。(ご観覧の際には必ずチケットの半券をお持ちください)

新ミュージアムグッズ販売!〈飛鳥山博物館オリジナルクリップ〉

この度、常設展示室にも展示されている当館所蔵の弥生町式土器と土偶がなんとクリップになって、この春ミュージアムグッズの新たなラインナップに加わりました!当館で配布されているパンフやチラシをはさむもよし、ご自宅やお仕事で使われるのもよし、形の細部も資料にできるだけ忠実に再現した一方でちょっとかわいい当館オリジナルクリップ、ぜひお買い求めください。

博物館オリジナルクリップ

地域からのVoice

おかえりなさい!白山神社の宝もの

堀船3丁目の白山神社で、去年、すてきなことがありました。奉納されていた刀が、3年前からちょっと神社を留守にしていたのですが、地元の方の厚意と熱意で、神社に帰ってきたのです。今年のお正月には、戻った刀が、神社に伝わる能面・十一面観音菩薩像とともに公開され、地域の方にお披露目されました。刀さん、帰ってこられてよかったですね。(田中)

学芸員リレーエッセイ

博物館いろは歌留多

記録にも記憶にも残るこの一年

世界的に猛威を振るう新型コロナウイルス。この新型コロナウイルスのパンデミックによって、2020年は我慢の一年となってしまいました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため今までとは異なる「新しい生活様式」が求められ、博物館の運営も決して例外ではありませんでした。

4月に私が飛鳥山博物館に赴任してきた当時、全国には1回目の緊急事態宣言が出され博物館は休館状態でした。また6月に再開した後も講座等は中止となり博物館の業務は縮小せざるを得ず、私自身いまだに通常の博物館の様子を見ることができていません。

新型コロナウイルスが世界的に拡大し始めてから約1年が経ちましたが、いまだ終息の気配が見えません。歴史を振り返ってみると、過去には天然痘やペスト、流行性感冒（インフルエンザ）などによるパンデミックが起きていますが、その度に人類はそれらの困難を乗り越えてきました。先が見通せない中ではありますが、この新型コロナウイルスによる困難を克服できることを信じ、講座等で皆様とお会いできる日を楽しみに待ちたいと思います。（髙坂）

利用のご案内

開館時間

ドラマ館開館に伴い、時間が時期によって変更となります。何卒ご了承ください。

3月19日（金）～3月31日（水）	午前9時45分～午後6時
4月1日（木）～5月9日（日）	午前9時～午後6時
5月11日（火）～7月1日（木）	午前9時～午後5時
7月2日（金）～10月3日（日）	午前9時～午後6時
10月5日（火）～12月26日（日）	午前9時～午後5時
1月5日（水）～	午前10時～午後5時

休館日

毎週月曜日（月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振り替え休館）

年末年始（12月28日～1月4日）このほかに臨時休館日があります。

常設展観覧料

	個人	団体	三館共通券※
一般	300円	240円	800円
高齢者（65歳以上）	150円★		
小・中・高	100円	80円	320円

・小学生未満は無料
・団体扱いは20名以上
・障害者手帳をご提示いただいた場合は、当館の一般券が半額となります。
・（障害のある方一人につき、介助者一人まで観覧料が免除となります。）
・三館共通券は当館のほか、紙の博物館・渋沢史料館をご覧になれます。
★年齢が確認できる証明書をご提示ください。
※現在、三館共通券の販売は中止となっております。

令和3年度上半期の主な催し物

※なお、状況に応じて場合によっては一部内容が変更となる可能性がございます。時期や内容の詳細については当館HPをご確認ください。

春　3月～6月

展示

◆スポット展示「ASUKAYAMAセレクション5★2021★」……（3/20～5/9）
◆〈回想のための〉テーマ展示「オボエテマスカ?-懐かしの暮らしと道具-」……（3/13～6/13）
◆スポット展示「栄一、西ヶ原一里塚に奔走す」……（5/25～7/4）

講座

◆第36回新聞から読む考古学-2020年を振り返る-……（5/8・5/9）
◆歩く勉強会～リチギにたどる区界2 ……（5/15）
◆浮世絵×コミュニケーション!　対話型鑑賞のすゝめ……（5/16）
◆北区遺跡学講座 ……（5/22）
◆北区文化財めぐり-王子編- ……（5/29）
◆北区文化財めぐり-西ヶ原編- ……（6/12）
◆飛鳥山に暮らせば。渋沢栄一と地域① ……（6/19）
◆文献から見る古代史 ……（6/20）

夏　7～9月

展示

◆夏休みわくわく展示「ここがすごいぞ!渋沢栄一」……（7/21～8/29）
◆特別展覧会「第20回　人間国宝奥山峰石と北区の工芸作家展」……（9月中旬～10月中旬）

イベント

◆夏休みわくわくミュージアム☆2021…（7/21～8/29）
・夏休み勾玉づくり教室、牛乳パックで行灯をつくろう、博物館探検隊、など

講座

◆第37回新聞から読む考古学-2021年上半期を振り返る-……（7/17・7/18）
◆飛鳥山に暮らせば。渋沢栄一と地域② ……（8/14）
◆飛鳥山に暮らせば。渋沢栄一と地域③ ……（9/25）

編集後記　当館の博物館調査員として着任してからもう3年目に突入します。昨年は多くの展示や講座が中止となってしまった一方、改めて自身ができることを考える年になりました。さて、いよいよ今年は私もいざ出陣!また1年、皆様どうぞよろしくお願いいたします。（谷口）

北区飛鳥山博物館だより　ぼいす46
［発　行　日］　令和3年3月20日
［編集・発行］　北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
［印　　刷］　日本印刷株式会社

刊行物登録番号2-2-095